

Ⅱ 基本構想

SCRUM KAWAISHI

1 釜石市の現状

釜石市は、リアス式海岸が生み出した天然の良港を有し、世界有数の三陸漁場、豊富な磁鉄鉱を有する釜石鉱山など、美しい海と山の恵みを生かして発展の基礎をつくりあげ、我が国の近代製鉄発祥の地、本県の水産業の拠点となり、東北有数の産業都市として歩んできた歴史を持っています。

産業構造の転換や国際的な漁業規制、国際競争力強化といった時代の流れの中で、基幹企業の生産設備の合理化が行われ、水産業も不振に陥るなど、地域経済の低迷が続いてきましたが、働く場の確保に向けた企業誘致や地場企業の振興、若者の地元定着に向けた施策を積極的に展開してきました。

特に、平坦地が少なく高速交通機関への接続にも時間を要するという地理的条件から、付加価値の高い産業の集積と、それに向けた研究開発の重要性に着目し、(株)海洋バイオテクノロジー研究所釜石研究所をはじめとする研究機関の立地と研究成果の事業化を促進してきました。

市民生活においては、地形的に津波や土砂災害、火災を含む山林災害等への備えが懸案となっていたことから、国県の理解を得て釜石港湾口防波堤の建設、急傾斜地の崩壊防止対策などに取り組んできました。また、生産年齢層の流出により国県を上回る速さで少子高齢化が進んでいる現状に対応し、高齢者向けの保健福祉施設の整備や乳幼児の医療費支援等を実施してきました。

都市の基盤整備としては、当市はもとより三陸沿岸地域の振興に大きな成果が期待される一般国道283号仙人峠道路の整備促進、公共ふ頭の拡張整備をはじめとする釜石港の港湾機能の強化を最重点課題として取り組んできたほか、嬉石地区の住環境整備事業、鈴子地区の土地区画整理事業等により、良好な都市環境の創出を図ってきました。

このような状況の中で、当市が結節点となる東北横断自動車道釜石秋田線及び三陸縦貫自動車道の整備が進められており、将来的に市内へのインターチェンジの設置やアクセス道路の整備が予定されています。更に、釜石駅周辺地区の都市開発の一環としての大渡橋の架け替え、橋上市場や釜石魚市場の移転改築、小中学校の統合、生活関連道路の整備などにより、今後短期間のうちに都市構造や街並み、土地の利用形態が大きく変化することが見込まれています。

釜石市は、こうした状況に的確に対応するとともに、道路と港湾の整備という飛躍の機会を生かすまちづくりが求められています。



釜石よいさ

2 時代の潮流と釜石をめぐる諸情勢

全国的な経済の低迷が長引く中で時代は大きな転換期を迎えており、これまでの経験や考え方だけでは対応できない大きな変化が、私たちの暮らしの様々な分野に影響を及ぼしつつあります。

新しいまちづくりを進めるにあたっては、こうした時代の変化を可能な限り展望し、行政はもとより、市民一人ひとりが的確に対応することが求められます。

1) 少子化と高齢社会の進展

我が国の総人口は、西暦2005年頃から減少に向かうことが予測されており、超高齢社会への対応が重要な課題となっている中で、女性の社会進出を支えるシステムや意識が不十分であるなどの複合的な要因により、少子化が急速に進んでいます。

当市は、高齢社会が既に現実のものになっていますが、年少人口比率・出生率ともに県内都市で下位に位置しており、現状のまま推移した場合、高齢者の福祉医療サービスに要する経費の増大や生産活動の中心的な担い手となる労働力の確保など、地域の経済活動の根幹に関わる問題に直面すると考えられます。

このため、安心して子供を生み育てることができる環境や、高齢者が健康で快適に暮らし、経験や知識を発揮できる環境の整備が一層求められるほか、それぞれの年齢階層に見合った福祉、教育などのサービスや施設の見直しが必要になります。

また、全国的な人口減の時代に入ることにより、都市の活力を維持向上させるために、交流人口の増加を図る施策の展開が重要になると考えられます。

2) 環境保全と健康志向の高まり

自然資源の枯渇、地球温暖化の進行、環境に蓄積する有害物質、次々と見つかる環境ホルモンなど、未来に対する私たちの不安により、環境問題への関心が高まっています。このため、これまでの人間中心の考え方を変えた「自然と人間との共生」が世界の共通認識になりつつあり、21世紀は、暮らしから産業活動に至るあらゆる経済社会活動において、この認識が広く浸透すると考えられます。

また、近年の生活環境や高齢化の進展に起因する様々な健康への影響に対する関心の高まりとともに、正しい情報に基づく安全な食物を求める傾向などが強まっています。

当市においても、生命の源としての自然を認識し良好な環境を守る視点のもとに、ゼロエミッションやリサイクルなど環境への負荷を考慮した取組みが求められるとともに、農林水産物の新たな国際ルール等に基づく衛生管理や、生涯にわたって健康で生活するための取組みが重要になると考えられます。

ゼロエミッション...ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすること。

3) 高度情報化の進展

インターネットなどの情報ネットワークやマルチメディアが一層発展し、市内外との情報の交換が容易になることにより、仕事や娯楽等の可能性が広がるほか、生活全般にわたる利便性が向上し、新たな文化や生活様式が生まれることも予想されます。

産業面でも、情報通信技術は地域間の情報格差や大消費地等との時間や距離による制約を減少させ、業務の効率化や省力化を促進するとともに、新たなビジネスチャンスを創出することが考えられます。

当市は、県沿岸部で唯一CATVの普及が進んでおり、高齢者の増加に対応する保健福祉サービスなど様々な地域課題を克服する上で、その活用を含む地域情報化は有効な手段であるほか、当市の置かれた地理的条件を補うためにも、あらゆる分野における情報化の取組みが重要になると考えられます。

4) 価値観や意識の転換

情報化の進展や平均寿命の伸長を受けて価値観の多様化が進み、心の豊かさや、ライフスタイルなどの自由な選択を望む傾向が強まっています。

特に、雇用形態や介護などの社会システムが変化し、性別や年代による固定的な役割分担意識も変わりつつあるなど、様々な個性や価値観をお互いに尊重し認め合うことが求められています。

市町村の行政においても、画一的な考え方ではない、ゆとりある生活への転換や生活の質を高めるといった視点が求められ、当市でも雇用対策や産業振興はもとより、快適で住み良い環境の整備や市民の知的欲求に応える生涯学習の推進など、多面的なニーズや時代の要請を的確に見極めた施策の選択が重要になると考えられます。

5) 地方分権と住民自治意識の高まり

地方分権の進展により、国の規制や地方自治への関与は少なくなる一方で、行政と民間との適切な役割分担や市民の自治意識がこれまで以上に求められています。

また、価値観や生活様式の多様化、高齢化の進展は、これまでの地域のコミュニティのあり方を変える一方で新たなニーズを発生させ、災害への備えなどの面で地域の結び付きの重要性が再認識され始めています。

当市では、これまで市民の自主的な取組みによる地域イベントやスポーツイベント、グリーンツーリズム等が育まれています。住み良い地域づくりのためには、住民の選択と責任のもとに住民自らが主体的にまちづくりに取り組むことが必要であり、地域を担う人づくりや、地域づくりの主要な担い手としてのボランティアやNPOの活動が一層重要になると考えられます。

CATV...有線テレビジョン放送。
グリーンツーリズム...農産漁村の自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。
NPO...民間非営利団体や非営利の公益的な組織活動。

3 まちづくりの主要課題

当市では、基幹企業の生産設備の合理化等により昭和38年をピークとして人口の社会減が続いており、平成元年以降は自然動態も減少に転じるなど、人口減に伴うまちの活力低下が最大の懸案となっています。

このような中で、私たちの生活を、どのように今よりも快適に活力あるものにしていくかを課題抽出の起点とし、当市の現状や当市を取り巻く諸情勢、市民の意識調査等に基づき、まちづくりの主要課題を次のように集約しました。

1) 魅力ある就業の場の確保

新卒者やUターン希望者の受け皿となる就業の場が少ないことが、若者を中心とする生産年齢人口の流出につながっているほか、第一次産業や地場企業等では後継者が不足していることから、魅力ある就業の場の確保が必要です。

2) 交流基盤の強化

生活圏の拡大とニーズの多様化が進んでいるほか、地理的な制約が地域産業の競争力を低下させていることから、道路や港湾、情報ネットワークなど、他地域との交流や連携を活発にする基盤の強化が必要です。

3) 商業空間と街並みの魅力向上

早期に都市基盤整備がなされた中心市街地においては、人口減やモータリゼーションの進展、ニーズの多様化などにより、商業を中心とした空洞化が進んでいることから、商業空間と街並みの魅力向上が必要です。

4) 子育ての環境と高齢者の暮らしやすさの向上

少子化が進んでいるほか、高齢者の更なる増加も見込まれることから、安心して子供を生み育てることができる環境の整備とともに、高齢者やハンディを持つ人に配慮した、暮らしやすさの向上が必要です。

5) 防災対策の充実

当市は、災害に対して脆弱な地形であり、津波や土砂災害、林野火災により幾度となく被害を受けてきているほか、高齢者も増加していることから、安全な避難対策を含む防災対策の充実が必要です。

モータリゼーション...日常生活で自動車使用が一般化すること。

4 将来展望とまちづくりの視点

釜石の現状と時代の潮流及び解決すべき課題の集約を通じて、真に豊かで住み良い釜石を実現するためには、市民の健康はもとより、暮らしの経済的な安定が図られることが必要であり、更に、まちに魅力やうるおいがあること、そして様々な交流が活発に行われることが必要と考えられます。

また、これからのまちづくりにおいては、地域の特性や可能性を再認識し、それを生かす施策を重点的に展開することが重要と考えます。特に、現在進められている一般国道283号仙人峠道路の整備と釜石港の港湾機能の拡充、将来的な東北横断自動車道釜石秋田線と三陸縦貫自動車道の整備は、当市の地域経済や市民生活に大きな変化と可能性をもたらします。

更に釜石市は、近代製鉄発祥の地として製造業文化の蓄積があり、現在も県内有数の工業都市として物づくりに対する理解が高いまちであるほか、三陸の海と当市の豊かな自然は、水産業や港湾による経済効果をもたらす、憩いの空間、教育や研究開発のフィールドとして、新たな可能性を生み出す源泉です。

以上のことを踏まえて、21世紀初頭の望ましい釜石の姿を展望し、その実現に向けたまちづくりの視点を次のとおり設定します。

(1)- 21世紀を担う - 人の視点

地方分権により市民主体のまちづくりが強く求められているほか、少子化と高齢社会が一層進展する中で、技術を創造し伝える人、助け合い支え合う人など、21世紀の釜石の地域経済や地域社会を担い、発展の鍵を握る人的資源の育成が、ますます重要になると考えます。

このため、子供達をのびやかに育み可能性を引き出す教育の充実や、郷土を愛し誇りを持って地域に参画する人を育む環境づくり、市民が安心して快適に暮らすための生活環境の整備など、人の視点に立った施策を展開します。

(2)- 21世紀を創る - 技術の視点

平地が少ない当市においては、付加価値の高い産業の育成が重要であり、これまでも鉄鋼や機械の分野で高い技術力により世界でも相当のシェアを占める製品が製造されているほか、漁業における新規養殖技術の開発や塵芥の高温熔融処理など、製造技術以外の面でも先端的な技術が開発されています。また、世界に先駆けた海洋バイオテクノロジーや地下空洞を活用した実験研究、中小企業の異業種交流による技術力向上への取組みも行われています。

このため、新技術の導入や研究開発への取組みを当市の特性として、地場産業の高度化や新しい産業の創造に努めるほか、先端的な情報通信技術の導入により都市機能や生活の質を向上させるなど、技術の視点に立った施策を展開します。

(3)- 21世紀を守る - 環境の視点

自然と人間との共生が世界の共通認識となりつつある中で、これまで海と山の恵みを生かして発展の基礎を築いてきた当市においても、豊かな自然環境や近代製鉄発祥の地としての歴史環境を大切に守り、後世に伝えて行くことが重要であると考えます。

このため、これからの産業展開など各分野において環境への負荷を考慮した取組みを進め、資源循環型社会に対応していくとともに、自然や歴史に恵まれた釜石の環境をまちづくりに生かすなど、環境の視点に立った施策を展開します。

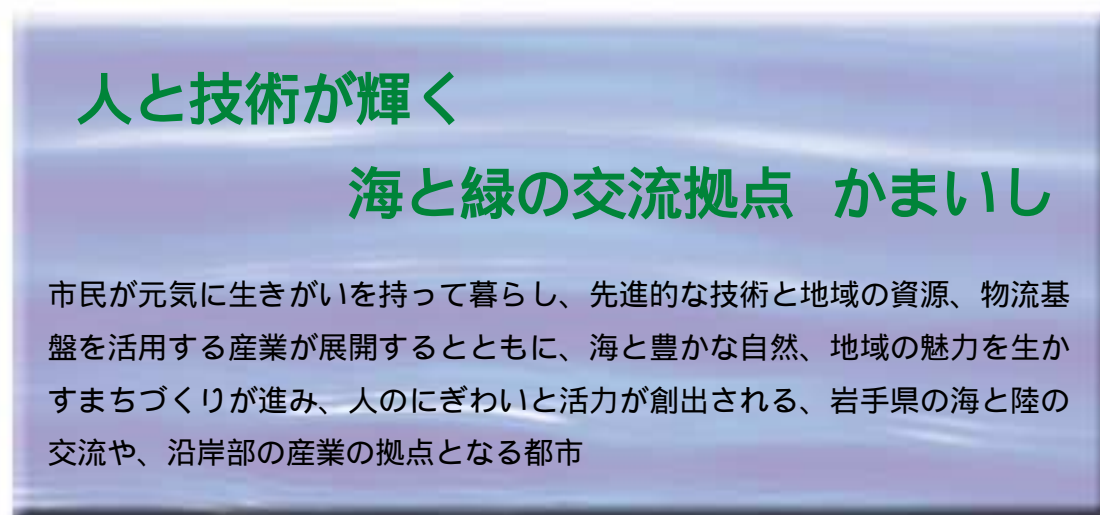
(4) 積極的な「交流」

当市は、これまでも全国から様々な地域の人や文化を受け入れながらまちづくりを行ってきましたが、全国の総人口が減少に向かう状況の中では、人と物の行き来によるにぎわいや、交流により得られる情報を地域の活力に発展させていくことがますます重要になると考えます。

このため、一般国道283号及び釜石港の機能向上と将来的には縦横の高規格幹線道路の結節点となる地理的優位性を生かして交流人口の増大や物流の活発化を図るほか、人や物、情報の交流を経済効果に結び付けることにより、まち全体が活力を増していくような取組みを進めます。

1) 将来展望

21世紀初頭の望ましい釜石の姿を、次のように展望します。



2) まちづくりの視点

釜石の望ましい姿を実現するために、新しいまちづくりを「人・技術・環境」の3つの視点から考えるとともに、「交流」を重視した施策を展開します。

5 まちづくりの基本目標と施策の体系

将来展望に向けた各分野の施策の目標となるまちづくりの基本目標と、その実現のための施策の体系を次のとおり設定します。

1) にぎわいと活力ある産業が展開するまち

地域の魅力を生かすまちづくりと交流基盤の整備により、にぎわいが創出されるとともに、人が生き活きと働く魅力的な就業の場があり、物流機能や地域資源、先進的な技術を生かした活力ある産業が展開するまち



(1) 活力ある産業のまちづくり

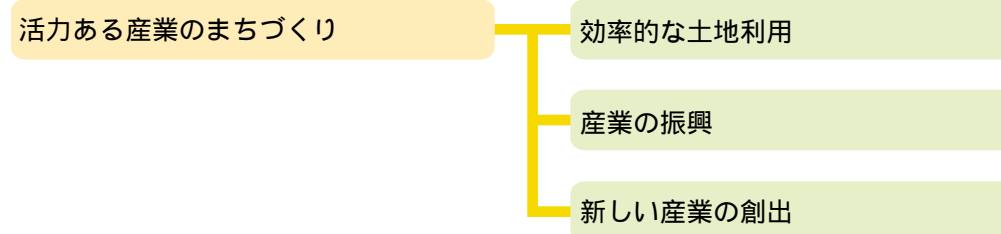
高規格幹線道路等の整備、地域の産業展開など様々な分野を総合的に調整しながら、土地の有効利用に努めます。

地域特性を生かした収益性の高い作物の生産拡大と加工による付加価値の創出を図るほか、環境保全や水源涵養などの機能を再認識しながら森林資源を有効に活用し、農林業の振興に努めます。

更に、漁業所得向上と魚市場の水揚げ増大を基本に、漁業者や漁業協同組合の経営の合理化・改善を支援するとともに、水産業の総合的な振興に取り組みます。

また、回遊性を高める魅力ある街並みづくり等により商業を支援し、楽しく買物ができる商店街の形成に努めるとともに、地場企業の育成強化に努めます。

あわせて、地域資源を生かす新しい産業の創出に向けて、地域の研究機関や産業育成機関、各企業との連携を強化し、地域に定着した付加価値の高いものづくりを支援するとともに、産業創造の原動力となるネットワークづくりや新技術等の研究開発、新事業の推進に努めます。更に、新規企業などの進出を強く促す環境づくり、立地条件の向上に努めます。



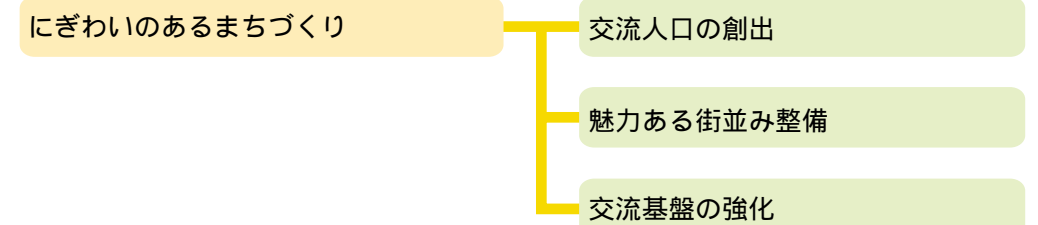
(2) にぎわいのあるまちづくり

地域の特長を生かした観光を推進するとともに、特色あるイベントや様々な地域間交流を促進し、交流人口の増大に努めます。

釜石の交流拠点地区である中心市街地の活性化や街並みの整備に努めるとともに、地域の歴史や自然環境などの魅力を生かすまちづくりを進めます。

また、一般国道283号仙人峠道路をはじめ高規格幹線道路の整備や釜石港の港湾機能の拡充など、人や物の交流を生み出す基盤の整備を強力に促進します。

更に、高度情報通信時代に積極的に対応し、情報ネットワークを活用して生活の利便向上や地域情報の発信に努めるとともに、情報通信基盤の整備を促進します。



釜石駅前広場

2) すべての人に優しい快適なまち

子供から高齢者までのすべての市民が健康で、安心して暮らすことができるとともに、環境への負荷に配慮した取組みや、人に優しいまちづくりが進められ、市民一人ひとりが快適な生活環境を実感できるまち



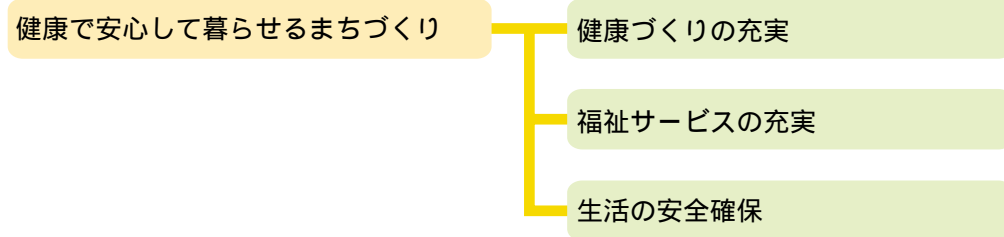
(1)健康で安心して暮らせるまちづくり

誰もが生涯を通じて健康で暮らすことができるよう、保健福祉サービスの拠点施設の整備や情報ネットワークの活用により保健・医療・福祉の連携を強化し、きめ細かな施策を総合的に展開します。

また、医療の高度化に努めるとともに、他の地域医療機関との連携などにより地域内で医療が完結できるように努めます。

更に、子供を健やかに育む環境や、障害者の社会参加を促進する環境を整備するとともに、介護サービスの質と量の確保を図り、介護保険事業の円滑な運営と高齢者の保健福祉の向上に努めます。

釜石港湾口防波堤の建設をはじめとする防災施設の整備や、広域的な消防体制の強化、高齢者の増加等に対応する自主防災体制づくりを進めます。

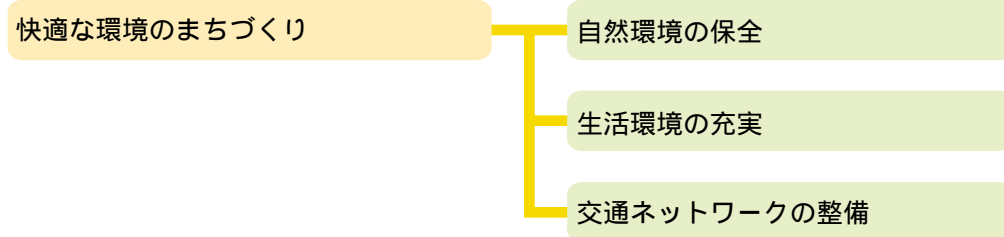


(2)快適な環境のまちづくり

恵み豊かな環境と共生し次代に大切に引き継ぐために、地域からの視点で環境保全に取り組めます。

また、新し尿処理場や生活排水処理施設の整備を進めるとともに、生活関連の基盤施設の適正な管理と更新、高齢者などに配慮したバリアフリーのまちづくりを進め、良好な生活環境の創出を図ります。

あわせて、生活道路の改良整備や公共交通機関の利用環境の向上に努めます。



バリアフリー...建築物の段差など物理的な障壁のほか、社会的、心理的な障壁がないこと。

3) 創造性豊かな人を育むまち

子供達をのびやかに育む環境や、生涯にわたる学習意欲及び芸術やスポーツに親しむ気持ちに応える環境が整い、市民の個性が生かされるとともに、市民による主体的な地域づくりが活発に行われるまち



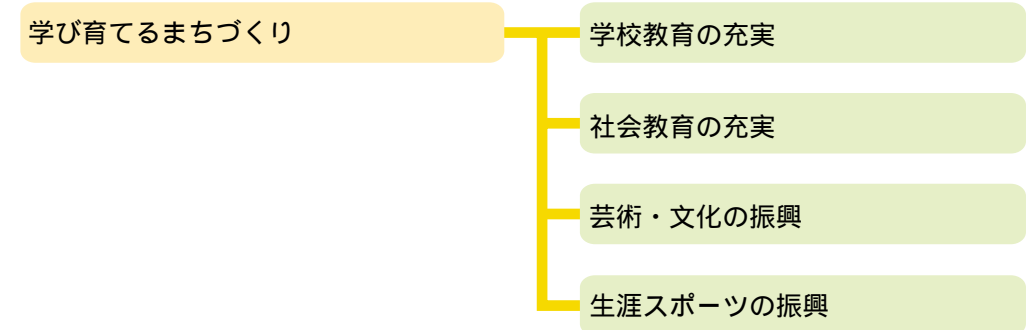
(1)学び育てるまちづくり

情報化や国際化への対応のほか、「生きる力」を育むため、教育内容の充実に努めるとともに、学校統合などによる教育効果の向上と学習環境の整備を進めます。

また、市民の学習意欲に応えるため、高度な学習機会の創出に努めます。

更に、近代製鉄発祥の歴史や郷土の文化、良好な環境など地域への理解を深める取組みを推進するほか、社会教育施設の整備や指導者の掘り起こしを図り、生涯学習の推進体制の整備に努めます。

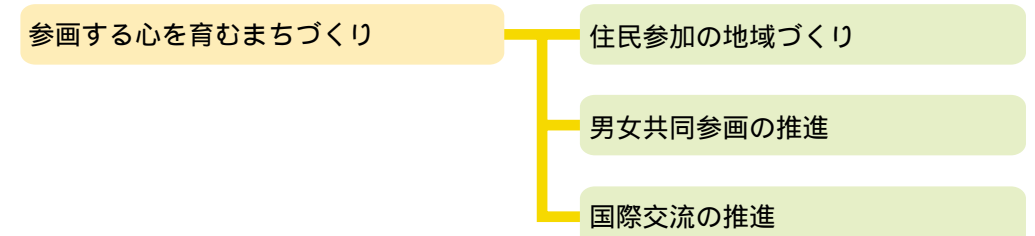
あわせて、気軽に芸術やスポーツに親しめる環境の整備に努めます。



(2)参画する心を育むまちづくり

地域住民の連帯意識や助け合いを大切にしながら、良好な地域コミュニティの構築に向けた市民活動や自主的な地域づくり活動が積極的に展開されるよう、環境の整備に努めます。

また、男女共同参画社会の実現に向けた取組みを強化するとともに、国際理解や国際交流を促進します。



6 重点施策と重要な基盤

1) 重点的に取り組む施策

釜石市の将来展望の実現に向け、各分野の施策の中から、次の6つの施策に特に重点的に取り組みます。

(1) 資源循環型社会に対応した産業の育成

高規格幹線道路と港湾の整備による交通アクセスや物流機能の向上に加えて、本市が長年にわたって蓄積してきた人材をはじめとする産業基盤を活用しながら、先進的な産業の集積に努めます。

特に、リサイクルやクリーンエネルギーなど、地域特性や資源循環型社会の要請に応えた新たな取り組みを進めます。

(2) 総合的な水産業の振興

仙人峠道路の整備による背後地の拡大を視野に入れ、基幹的な地場産業として水産業を再認識し、漁業経営の改善による魅力ある漁業づくりを推進します。

更に、魚市場の水揚げの増大による地域活性化を進め、漁業から加工に至る業界の連携と衛生管理の徹底、老朽化が進む釜石魚市場の円滑な移転を促進するとともに、水産加工団地の整備など、総合的な水産業の振興に取り組みます。

(3) 中心市街地の活性化

大渡橋の架け替えと、橋上市場、釜石魚市場及び市庁舎の移転改築を進めることにより様々な変化や影響が予想される中心市街地について、楽しく買い物ができ、回遊性の高い魅力ある街並みの整備や、商業等の振興を図り、活性化に努めます。

(4) 鉄の歴史と環境を生かす地域づくり

近代製鉄発祥の歴史や地域固有の文化、恵まれた自然などの資源を活用して、地域をまるごと博物館と見たてる取り組みを進めることにより、郷土に対する誇りや理解を高めるとともに、交流人口の創出を図ります。

(5) 地域コミュニティによる健康安心づくり

高齢社会の進展に対応して、市民がいつまでも元気で暮らせるよう、各地域における保健福祉のサービス体制やスポーツに気軽に取り組める環境を整備するほか、地域の保健福祉活動を支援するコーディネート機能を構築します。

更に、高齢者が地域社会で能力や経験を発揮できるような環境づくりを進めます。

(6) 生涯学習の推進

地域の担い手となる人材を育成するため、公民館機能を充実するとともに、市民や様々な団体の活動を支える生涯学習の推進体制を整備し、地域への理解を深め参画を促す活動の活発化を図ります。

また、小中学校及び幼稚園の統合計画に取り組み、学習環境の整備に努めます。

コーディネート...複数の事柄を調整すること。

2) 重要な基盤

将来展望の実現のためには、まちづくりの基本目標の実現手段となる基幹的な都市基盤の整備と土地の効果的な利用が不可欠であることから、特に重点的に取り組みます。

(1) 高規格幹線道路の整備

本市振興の生命線として、人、物、情報の交流を活発化させる一般国道283号仙人峠道路の一日も早い完成と、東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道の早期完成が不可欠であることから、国県の理解を得ながら、市民をあげた強力な取組みを展開します。

(2) 釜石港の機能の高度化

恒久的な津波対策としての釜石港湾口防波堤建設、物流基盤の要となる公共ふ頭の拡張整備は、高規格幹線道路整備と並ぶ最重要事業であり、道路と港湾は密接に関連する基盤施設であることから、この早期完成を強力に促進します。

また、港湾機能の拡充後を見据えた湾域の高度利用に向けて、取組みを進めます。

(3) 生活関連基盤施設の整備

県内でも早くから生活基盤の整備が進んできた本市の特性を踏まえ、人口規模やニーズの変化に対応して、老朽化した都市基盤の更新や街並みの環境整備を計画的に進めるほか、基本的な生活環境を向上させる基盤施設の整備を進めます。

(4) 効果的な土地利用

平坦地が少ない本市においては、基幹企業の生産設備集約等に伴う遊休的な土地、既存施設及び学校の統合等により発生する土地の有効利用が重要であり、今後の土地利用を都市施設、市街地開発事業などと調整し、高規格幹線道路及び港湾の整備を市民生活の向上に結び付けられるような取組みを進めます。



まちづくりワークショップ

7 構想の推進

少子高齢化が更に進展し、総人口も減少に向かうと予測されている中であって、我が国の経済は依然として低迷が続いており、国、地方ともに財政状況は一層厳しさを増し、これまでの我が国を支えてきた様々なシステムが見直しを迫られています。

当市においても、市民がまちづくりを行政や特定の団体・企業に依存するのではなく、市民の手による主体的な活動を、市民相互及び行政などが支援していく新しい仕組みへの転換が求められてきています。

このため、第五次釜石市総合計画においては、計画の立案から推進及び評価までの各過程に市民が参加するとともに、立場を異にする人がスクラムを組んで地域の課題に対応し、新しいまちづくりに取り組むことを構想推進の基本的な考え方に据えます。

1) パートナーシップによるまちづくり

市民一人ひとりが主体性と責任を持って地域活性化の主役となるまちづくりを進めるためには、市民や企業と行政との適切な役割分担が重要です。

そのため、行政情報の積極的な提供と広報広聴活動の充実により、市民のまちづくりへの参加意欲を高め、市民相互の交流の促進とネットワークの構築に努めます。

また、国県との適切な連携と協力により円滑な事業展開に努めるとともに、幅広く多角的な観点からの施策の検討を進めます。

2) 効率的・総合的な行財政運営

地方分権が進展する中で自治体の財政状況は厳しさを増しているため、計画の推進にあたっては、機動的な政策決定と経費の重点配分による市内横断的な取組みが不可欠です。

そのため、計画の進捗を測定する指標に市民満足度の視点を取り入れながら、政策の効果や成果を再点検し、総合的な計画の推進を図ります。

また、効率的な行政運営のため、市民サービスの向上と事務の効率化、市庁舎の円滑な移転改築、統廃合を含む公共施設の適正な維持管理に努めます。

3) 広域的な取組みの推進

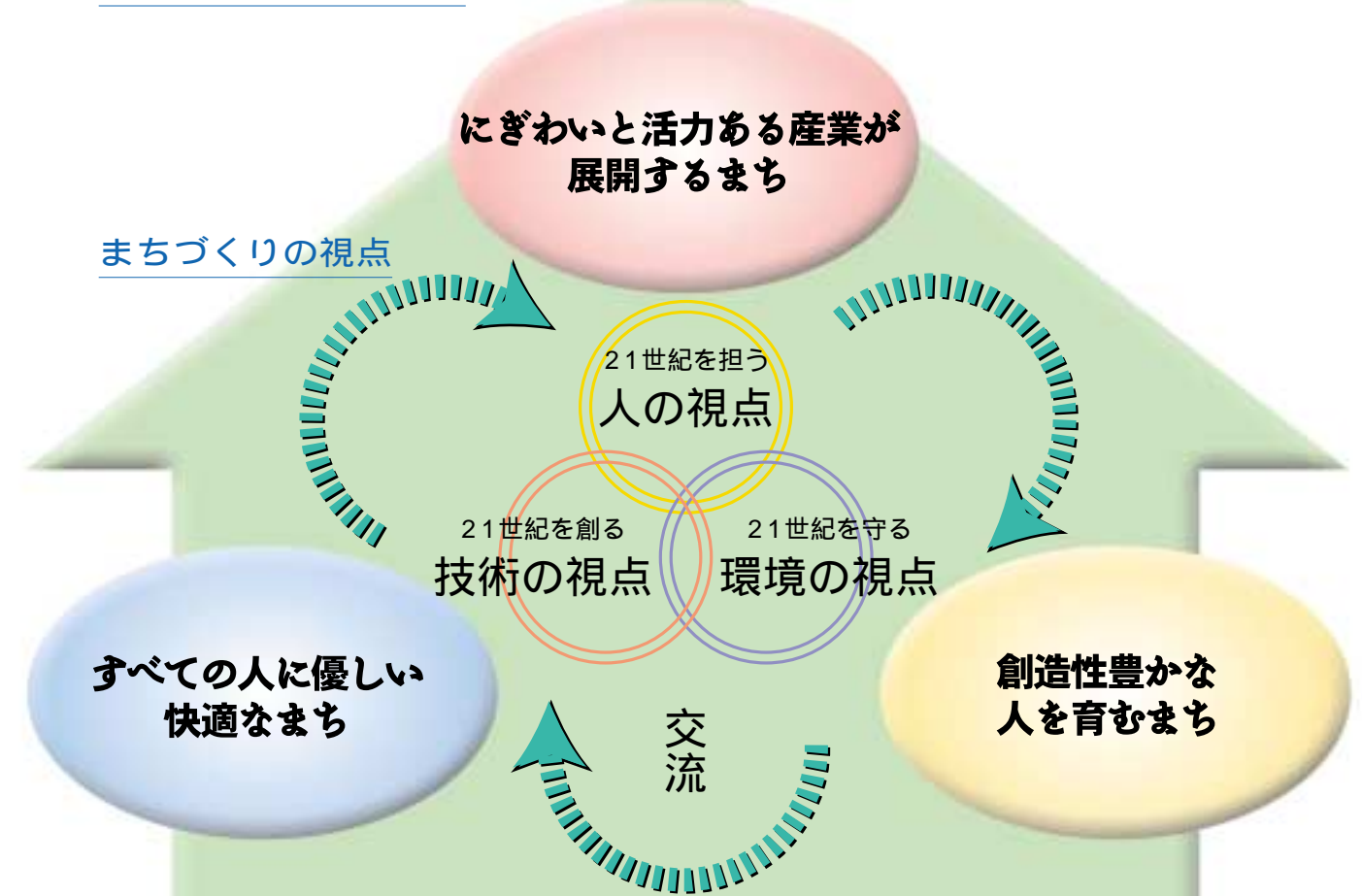
日常的な生活圏や経済圏の拡大に伴い、広域行政の取組みが求められています。

そのため、広域市町村圏や三陸地域の近隣市町村との連携を一層密にするほか、広域的な視点による施策の選択に努めます。

また、日常生活圏を構成している大槌町との合併に向けて、広域行政や両市町民の交流を促進しながら、気運を高めていきます。

人と技術が輝く海と緑の交流拠点

まちづくりの基本目標



6つの重点施策

- 資源循環型社会に対応した産業育成
- 総合的な水産業の振興
- 中心市街地の活性化
- 鉄の歴史と環境を生かす地域づくり
- 地域コミュニティによる健康安心づくり
- 生涯学習の推進

重要な基盤

- 高規格幹線道路の整備
- 釜石港の機能の高度化
- 生活関連基盤施設の整備
- 効果的な土地利用

推進体制

- パートナーシップによるまちづくり
- 効率的・総合的な行財政運営
- 広域的な取組みの推進

釜石の主要課題

- 魅力ある就業の場の確保
- 交流基盤の強化
- 商業空間と街並みの魅力向上
- 子育て環境と高齢者の暮らしやすさ向上
- 防災対策の充実

時代の潮流

- 少子化と高齢社会の進展
- 環境保全と健康志向の高まり
- 高度情報化の進展
- 価値観や意識の転換
- 地方分権と住民自治意識の高まり

第五次釜石市総合計画「スクラムかまいし21プラン」施策体系図

